



地域日本語支援ニュース こだま 第380号

2020.5.14



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

==== 目次 =====

1■ 日本で生きる：埼玉県川口市から■

- (1)南平日本語クラブ ワヤン バユ アジ(WAYAN BAYU AJI)
- (2)南平日本語クラブ ファジャル フィルマンサー(FAJAL FIRMANSAH)

2■ お役立ち情報 ■ オンライン学習サイトのご紹介 1

=====

1■ 日本で生きる：埼玉県川口市から■

現在の厳しい状況の中、日本語教室の多くは、休会を余儀なくされています。2月の川口市スピーチコンテストで帰国を間近に控えた技能実習生のお話は是非紹介したいものでした。インドネシア出身のワヤン バユアジさんと、ファジャル フィルマンサーさんが、第11回川口市外国人によるスピーチコンテスト(2月16日)に出場しました。今回、その原稿を元にまとめてくださいました。是非お読みください。お二人は市内の南平日本語クラブで学び続けましたが、その教室も現在は開いていません。教室のメンバーはフェイスブックなどを通じて連絡し合い、お互いに再会を待ち望んでいます。

.....

台風 19 号が来ます

南平日本語クラブ

ワヤン バユ アジ(WAYAN BAYU AJI)

◆台風が来たら？

みなさん、急に台風が来たらどうしますか？逃げ出したいですね。インドネシアにいた時は、ひたすらお祈りするだけでした。「アラーの神様、どうか助けてください。僕はまだ生きていたいんです。お願いいたします。」と。でも、日本での台風の経験から、お祈りだけではなく、災害にそなえることの大切さを学びました。

僕は 19 才の時、技能実習生としてインドネシアから参りました。日本へ来る前に日本について調べました。僕の国と同様に地震や台風などの災害が多いことがわかりました。ですから、たまに地震が来ても驚くことはありませんでした。ところが、去年の 10 月に僕にとって、忘れられない出来事がありました。それは台風 19 号です。

会社の人から、1 週間後に大きな台風が来るから家の外にある飛ばされそうな物は中に入れ、食べ物をたくさん買い、お風呂に水をためるようにと言われました。もし、被害が大きくなりそうだったら、避難所に行くようにとも教えてもらいました。

日本では災害にそなえて早くから予報が出されます。今回はお役所からも、メールで連絡が来ました。どのように行動すればよいかわかり、助かりました。被害を小さくすることにもつながるので、とてもよいことだと思います。

◆祈るだけではなく備えを

インドネシアに住んでいた時には、そのようなお知らせが来ることは、ありませんでした。もちろん、天気予報はありますが、国土が日本の 5 倍で、とても広いので、全くあてになりません。ですから突然、災害に見舞われ、建物が壊れたり亡くなったりする人が多かったのです。何しろ情報がない

ので何も準備できないし、どこに行けばいいかわかりませんでした。

「アラーの神様、どうか助けてください。」とお祈りをします。でも、日本での台風の経験から、お祈りだけではなく、災害にそなえることの大切さや、どんな準備をすればよいかを国へ帰ったら皆に教えてあげたいです。

◆インドネシアの助け合う気持ち

インドネシアでは、災害の被害を受けることが多いですが、とてもいいところもあります。それは、隣近所の人たちがいつも助け合っていることです。例えば、家が壊れたら、すぐに皆で集まり、協力して直します。お金はいりません。いつも誰かを助けたいと思っていますし、助けてあげられることに喜びを感じています。

◆日本とインドネシアのよいところ

日本ではそのような場面を見ることはあまりありませんでした。現に僕は3年も日本に住んでいるのに一度も隣近所の人と知り合うことはできませんでした。とても残念です。日本人は普段からまわりの人に迷惑をかけないようにしています。これはとても素晴らしいことです。

でも、自分が迷惑をかけられたくないのではないですか？大きな台風が来たことで、日本のいいところやインドネシアのいいところに改めて気がつきました。5月にインドネシアに戻ります。来日した時から毎週通い続けた日本語教室の先生をはじめ、日本での生活を支えてくれた全ての人に感謝しています。

.....

私が学んだ素晴らしい事

南平日本語クラブ

ファジャル フィルマンサー (FAJAL FIRMANSAH)

◆技能実習生として来日

2年半前に技能実習生として来日しました。今年6月にインドネシアに帰ります。初めて会社に行ったとき、皆はやさしく、親切でしたが、仕事が始まると大変困りました。日本語がまだよくわからず、早口で言われると、意味がよくわかりませんでした。

ある日、私は大きな失敗をしてしまいました。上司から大きな声で、「何やってんだ！勝手にやるな！ケガをしたいのか！」と怒られました。私は何と返事をしていいか分からず、「はい」と答えれば問題無いだろうと思い、すぐに「はい」と答えました。そうすると「本当にケガをしたいのか！」ともっと強く怒られました。

その時は、なんでそんなに強く怒られるのか正直わかりませんでした。心の中では「何て言っているのかわからないのだから、しょうがないでしょう」という気持ちがありました。

◆日本語で日記を毎日書く

私が実習している会社は日本語がうまくなるために、毎日日記を書いて提出し、それを直してくれます。ある日、上司から「君のアパートではゴキブリがいるのか、早く退治しなさい」と注意されました。なぜそう言われたのか、分からなかったのですが、実は、提出している日記の中にゴキブリが入っていて、そのまま提出してしまったのです。

私も知らなかった事ですが、心の中で「社長すみません。私はゴキブリと一緒に出勤してしまいました」と謝りました。

私は本格的なゴキブリ退治を始め、ゴキブリホイホイを置いたり、殺虫スプレーをまいたりしました。台所や部屋の掃除、ゴミの整理も徹底的にしました。今では、部屋も台所も前より綺麗になりましたが、今も可愛い顔をしたゴキブリが出てくる時がたまにあります。

◆注意の言葉は「がんばれ、しっかりしろ」

この2年半、会社で色々注意され怒られました。最初は何でそんなに怒るの、注意ばかりでうるさいなどと思っていました。でも、怒られた事や注意された事に気を付けて、怒られないように、注意されないようにしようと

思い、会社の人と日本語で話をしたり、わからない言葉やわからない事を聞いたりしているうちに、前より日本語がわかるようになったり、部屋が綺麗になったり、皆と明るく話せるようになったりして、少しずつ変わって来ている自分に気が付きました。

その時、私は皆が怒ったり、注意したりしてくれるのは、私の事を思って、私のために怒ってくれているのだと初めて思いました。それ以来、怒られたり、注意されたりする言葉が「がんばれ。しっかりしろ」と私を応援してくれているように感じ2年半頑張ることができました。

真剣に相手のことを思って怒るという事、とっても素晴らしく良いことだと思いました。私も国へ帰ったら、相手のことを思い、相手のために真剣に怒れる立派な大人になりたいと思っています。

.....

◆南平日本語クラブ 代表 松本幹夫

お二人は、毎週木曜日夜、とにかく熱心に教室に通い続けました。スピーチも自分たちの体験をもとに、ほとんど自分の力で書き上げて、「第11回川口市外国人による日本語スピーチコンテスト」に出場しました。ファジアル フィルマンサーさんは1位、ワヤン バユアジさんは2位になりました。

二人は、「来日当初はつらい事もあったけれど、会社や日本語教室で学ぶ皆様とのつながりの中で、今は楽しかった思い出を持って国に帰れます」と笑顔で話しています。

市内の南平日本語クラブでは、日頃からSNSを通じて行事などを伝えていますが、休会中の2月末からは、フェイスブックを通じて、お互いに励まし合っています。クラブのメンバーは、教室の再開出来る日を待ち望んでいます。

※編集部より

★ 南平日本語クラブについて

川口市ホームページ 「ボランティア日本語教室」をご参照ください

<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01060/020/4/4970.html>

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、現在、この表の中の全ての教室が
休講／お休みとなっております。
